

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念の他に、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員の採用時には必ず理念を伝えている。また日常の中で理念にそっているかを確認し合うようにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には、入居時や折に触れ繰り返し話している。運営推進会議や介護者教室(予防教室)等で地域住民に対して伝えるようにしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>事業所の周りは、田畑なので、農作業している人や地主さん達とは挨拶をかわしている。又利用者が徘徊していると畑の人達が協力的に通報してくれる。運営推進会議にて、地域の行事等の情報を得、参加したりしている。又、全事業所職員で施設周辺のゴミ拾い・側溝清掃活動を年2回行なっている。今年キャラバンメイトとなったので、地域の認知症普及活動に参加する予定。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は、スタッフ全員で行ない、何が求められているかを再確認し、自分の行動を振り返る機会にし、サービスの質の向上に努めている。外部評価も全スタッフに配布し、改善に向けての検討を行なっている。新人職員にも、評価を渡し、方針の参考に使っている。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項は話し合ったり、経営にかかわる事は法人理事と相談し、次回の会議にて報告している。評価結果については委員にも配布し、意見を頂くようにしている。</p>	<p>推進委員をもう少し増員し、サービス向上を、より図りたい</p>
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者とは、運営推進会議参加時だけでなく、折々に何かと相談している。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は年間の内部研修で、成年後見制度や権利擁護事業について実施している。家族からの相談があれば対応しているが、利用にいたってはしない。</p>	
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修やミーティング等で常に話し合い虐待防止法に関する理解や遵守に向けた取り組みも行なっている。拘束については、日常の中で話し合ったり、行なわないことにしている。基本的には拘束は行なっていない。合同にて、外部講師を迎え研修を9月に行う予定。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの環境で暮らせるよう異動等は最小限にしている。又離職は良く話し合い、職員の環境にも配慮している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の内部研修を行なっている。内容はスタッフから勉強したい内容も取り入れている。外部研修にも、段階を考慮し参加するようにしている。月1回のカンファレンスでも話すようにし、新人に関しては、1対1で話すようにしている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人のグループホームとの交流・情報交換をおこなっている。又、実践者研修の受け入れをしている。</p>		<p>以前は、交換実習を行っていたが、昨年は出来なかったので行なっていきたい。</p>
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スタッフのストレス・疲労の要因について気を配り、人間関係を把握するように努めている。日常の中でも利用者と共に笑顔で仕事が出来よう努めている。他事業所(法人)合同の親睦会があり、旅行・忘年会等で交流・親睦を図っている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者が時折現場に来ており、利用者と話したりスタッフとも話している。又年2回自己評価、面談を行ない向上心を持てるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からは困っている事・不安な事などは、ゆっくり話を聞くよう心掛け、必ずご本人に会って心身の状況や思いに向き合うように努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他サービスの内容も話し、必要であれば居宅・施設相談員等と一緒に話しを聞くようにしている。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>出来るだけ本人・家族に見学して頂き、利用者・職員・雰囲気馴染んでいただけるよう行なっている。入居時は、理由を話し、家族には面会の協力をお願いしている。食器等も使いなれている物を持ってきていただいている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>1つの家族のように家事等日常生活の役割を生活歴・本人の得意な事を探し行なっている。流れの中で出来るだけ利用者にスタッフが教わるような声掛けを心掛け、実際に昔の遊び・歌等は、スタッフが教えてもらう場面もみられる。</p>	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と良く話し合い、思いをくみとり、日々の出来事等を共有しながら一緒に支援していくように努めている。</p>		
26	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族・本人の思いや状況を見極めながら、行事の参加等に誘ったりし、良い関係を保ち続けるよう努力している。報告・相談も聞いている。</p>		
27	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>折に触れ自宅訪問し、家族や近所の人達とふれあったりしている。デイサービスやショートステイ利用者、特養入居者に、馴染みの方がいるので、訪問し交流出来るように配慮している。また、美容院も入居後同じ所を利用している方もいる。</p>		
28	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係性については、スタッフで情報を共有し注意を深く見守るように心掛けている。又、気の合う利用者同士の調整もスタッフがさりげなく行なっている。</p>		
29	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>写真等家族に届けたり、家族と外で偶然会った時は挨拶しお話ししている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話の中で聞き出したりした事は出来るだけ実現出来るよう努力している。聞き出しが困難な場合は、カンファで本人の生活習慣等を探ったり、家族に本人の思いを聞いたりして把握するようしている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前後、入所中に家族から情報を聞いたり、本人との話の中から引き出し、家族に確認をしながら常に新しい情報を把握するようしている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている</p>	<p>カンファや日常生活の中で、利用者一人一人の生活のリズムを把握し、隠された力や、行動等から感じ取り、本人の全体像を把握している。出来ることは、継続出来るように支援している。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のカンファや、その都度意見を出し合い、また、家族・訪看(医療連携)にも意見を求め計画している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回のカンファでの見なおしと共に、変化のあった場合はその都度、状態を把握し家族に連絡・確認を得ながら、現状に即した計画が作成出来るようになっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に排泄・食事・バイタル・言動等を記録している。また、日常でもスタッフ同士で出来事等を情報提供しながら共有しカンファに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて通院・送迎等必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	周辺の教育機関・施設への必要に応じた相談支援等をおこなっていきたいが、現時点ではない。		
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2ヶ月に1回は理容に行けない利用者のために訪問理容サービスを利用してもらっている。また、家族及び本人の希望にて訪問リハビリサービスを利用してもらっている。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見人制度が必要な利用者に対しては、市町村・運営者と協力しながら支援していく方針だが、まだ行った例はない。		包括支援センターの職員が運営推進会議に参加してもらえるよう働きかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>重度化したり、終末期のあり方については、その状態・変化がある毎に、家族の思いや気持ちを確認し、医師・看護師に伝え、対応している。又、状態悪化時には、医師の指示により訪看の協力・ご家族の毎日の訪問等により全員で方針を共有している。</p>
45	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>排泄の有無をトイレから他スタッフに話さないように心掛けている。</p>
48	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>個々の生活習慣・こだわりを大切に、本人の好みで整えられるよう見守り・支援している。洋服等の買い物も出来る方には選んで頂いている。美容は行きつけの所へ行っている入居もいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえ・盛りつけ・片づけなどは、それぞれ利用者の出来ることを一緒に行っている。食事はスタッフも全員同じテーブルにつき、あわただし雰囲気にならないようにしている。食事のペースは一人一人にあわせて摂って頂いている。又、食器も本人が出来るだけ自力で頂けるよう工夫している。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を理解し、本人の様子を見ながら提供し楽しんでいただけるよう支援している。たばこはスタッフで管理し希望にそって他利用者に配慮しながら行っている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、時間・習慣を把握しトイレ誘導を行っている。尿意等が無くてもチェック表を活用し、下着に尿とりパットの使用でトイレ・ポータ誘導している。日常的にオムツは使用していない。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、柔軟に変更出来るよう全スタッフが周知している。時間も利用者の希望があれば行うようにしている。入浴拒否に対しては、機嫌をみながらスタッフ同士協力しながら支援している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の就寝時間を尊重している。寝付けない利用者には、温かい飲み物や、会話をし、ゆっくり出来るよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や普段の生活・会話の中から、出来ることを探し、利用者一人一人食事準備・食器拭き・洗濯たたみ、洗濯干し・掃除等行い、必ず感謝の気持ちを伝えていく。地域の祭りごと・行事等利用者と相談し出かけている。ホーム内では、軽い運動や唄・遊び等についても、利用者と相談しながら行っている。		遊び等がパターン化してきているので、新しい療法や、生活リハビリを取り入れるように考えていきたい。


	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族の了解を得て少額のお金を持っている人もいる。家族からお金を預かり事業所が管理している利用者は、能力に応じ買い物時には自分で払って頂くようにしている。</p>		
58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天気・本人の希望に応じて散歩・ドライブ・自宅訪問等を行っている。車椅子利用者も同じく出かけている。また、地域の祭り・行事や、外食、弁当を持ち出かけたりにしている。</p>		
59	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>本人が行きたいと思う場所へは、家族に了解を得、勤務調整し出かけている。家族と待ち合わせたりと協力を得ている。</p>		
60	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は本人の希望・状況に応じて支援している。また、家族には入所時に了解して頂いている。電話する時は、スタッフが、必ず家族と話了解を得ている。</p>		
61	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時間は決めていない為、いつでも訪ねて頂いている。他利用者に気兼ねなく過ごせるよう居室・小ホールを利用して頂いている。また、スタッフも気軽に来やすいような雰囲気心を心がけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないという考えの中でスタッフ全員が確認しながら共有認識を図っている。ミーティングや日々の申し送り等でも、その日の振り返りを行っている。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤者一人になる時だけ施錠し、日中は施錠せず、外へ行こうとされる方には一緒に付き添っている。		
64	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者と同じ空間で過ごし、さりげなく全員の状況を把握するようにしている。夜間は、最低2時間ごとに様子を確認している。物音や変化があればプライバシーに配慮しながら対応している。		
65	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて対応している。		
66	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録しスタッフで共有認識を図っている。事故は発生した場合は速やかに事故報告書を作成し、原因・今後の予防対策を検討し家族へ説明・報告を行なっている。事故が発生した時の状況や対応は家族に報告を速やかに行っている。合同訓練や、内部研修にて防災について学んでいる。		
67	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル作成している。内部研修にも取り入れている。普通救命講習2・3年に1回全員受けている。		
68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成している。定期的に併設の事業所と避難訓練を行っている。地域に関しては推進会議で話し協力をあおっている。内部研修にも取り入れている。災害時のヘルメット・ヘッドライト・非常食は準備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	役割活動やケアプランについての事業所の取り組みの内容を説明し、リスク等はその都度家族に報告・了解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル・食欲・排泄・顔色・様子等を把握し、異変が見られた場合は、訪看に報告。相談し記録している。必要に応じ受診を支援している。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の内容を個人ケースにはさみ把握出来るようにしている。服薬時は本人にその都度渡し(可能な人)服薬の確認をしている。薬の変更も日誌・個人ケースに記録し全員把握出来るようにしている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量・適度の運動・飲食物の形態、内容を把握しながら、排便チェック表と照らし合わせ、一人一人にあった自然排便を探している。ただし排便の困難な利用者に関しては下剤を実施しているが、出来るだけ臨時薬として服用するようにしている。また、毎朝牛乳を飲んで頂いている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨き・義歯洗浄の声掛けを行い力に応じスタッフが見守り・介助を行っている。年1回内部研修にて歯科衛生士から口腔ケアの重要性・ケアに仕方を聞いて実施している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量をチェックし、本人の習慣の量を把握し行っている。嗜好も把握しながらメニューを作り併設の栄養士にチェックしてもらっている。調理法の工夫も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成し、看護師との内部研修を行っている。食中毒防止の為、食材は新鮮な物を毎日配達して頂いている。手拭きタオルも共同でなく個人の物を使用し、ペーパータオルも設置している。又、合同の感染委員会に参加している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の殺菌・毎食後の布巾の漂白を行っている。食材の残りは毎日点検を常に行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に手作りの看板を掲示し、玄関には草花を植えたりプランターを置いたりしている。下駄箱の上には季節の置物を置き季節感を演出している。時々、庭の花を摘み、ホールへ飾っている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面式で、話をしながら調理したり、匂いや音を感じることが出来る。トイレも換気扇を使用し調整している。入浴も入浴剤使用し、色・香りを楽しんで頂いている。テレビの音量も利用者に確認しながら行っている。あかりは利用者が自由につけたり消したりしている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の他に小上がりの畳・小ホール・玄関の長椅子・ベランダと有り、少人数・1人で過ごせるスペースを確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は出来るだけ自宅で使用していたものを使う様、家族にもお願いしている。家族の写真や、仏壇等を持ち込んでいる方もいる。		
81 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気については、訪問看護の意見を聞き、利用者の状況に応じて対応している。意見を聞きながら窓を空けたり、必要な時は皆さんに断ってから入れ替えしている。異臭の強い時は、消臭スプレーを使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低限必要な手すりを付けながら、見守り・一緒に歩くなどをし、身体機能の低下を妨げないようにしている。体力低下がないように毎日の体操をかかさずしている。		
83 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	どうすれば出来るのか、何が分かりにくいのかをスタッフ全員で考え、又、新人スタッフにも今までの状況等を説明しながら、可能な限り自立支援している。		
84 建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に四季折々の花や草木を確保し、利用者が和める工夫をしている。天気の良い日は、食事やお茶をベランダや野外に出て楽しんでいる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・職員と利用者との一緒に笑顔を増やす。排泄はトイレ・ポータブルで行な、可能な限りオムツは使用しない。家族と話しやすい関係作り。